

異文化体験記 ◎今回は山東省外事弁公室から和歌山県へ研修で来県されている崔さんによる「異文化体験記」です。

皆さん、こんにちは。山東省から和歌山県に派遣されている崔璐と申します。10月より3ヶ月の研修で来県しており、最初の2ヶ月は月曜日から木曜日まで和歌山大学大学院経済学研究科で授業を受けさせていただいています。今回の異文化体験記では、日本と中国の大学の違いについて紹介したいと思います。

まず、規模的に言いますと、中国は国全体の人口が多いため、大学の規模も日本より大きくなります。山東大学を例と言いますと、6万人もの在校生と8000人近くの教員がいて、8つのキャンパスを持っています。



山東大学メインキャンパス

また、中国の大学生は基本的に学校の寮に住んでいます。一人部屋ではなくて四人部屋が一般的です。外国人留学生は一人か二人部屋の場合が多いです。学校から見れば、安全面も含めて生徒に対しての全体管理も便利です。生徒同士で共に勉強して、暮らして、社会人になる前の貴重な集団生活の体験にもなります。

日本の大学生はバイトするのが一般的で、ほぼすべての生徒はバイトしていますが、これは収入源になるだけではなく、社会勉強としても自分を成長させてくれる機会になります。中国では、大学生より院生のほうがバイトする機会が多くて、基本的には塾か専門学校の非常勤講師、会社の非常勤社員、外国語専門の学生ならフリーの通訳、という感じです。

大学生で家庭教師やレストランなどでバイトしている人もいますが、大多数は勉強に専念します。

進路面では、日本の学部生は、卒業したら大学院へ進学するより就職を選択する学生のほうが圧倒的に多いと感じますが、中国では大学院まで進むケースが圧倒的に多く、むしろ大学院へ進学できなかったから就職を選ぶということが多いです。

ここ数年、海外経験を求める学生が増え、親たちも自分の子供が海外で国際経験を積んでほしいと考え、留学する現象が際立っています。和歌山大学でもたくさんの中国人留学生が在学していて、将来、日本に残って就職する子も結構います。

和歌山大学で学ぶのは、あっという間に残り二週間となりました。和歌山県庁、そして和歌山大学の皆さんが綿密な課程表を組んでくださり、貴重な体験ができ、本当に感謝しております。今後も和歌山大学で習った経済学の知識を通訳と国際交流の仕事に生かしたいと思います。また、山東省内の大学と和歌山大学の交流がますます活発になるよう願っています。



寮の部屋の様子